

# CLUB

at

**先輩たちから中学生へ!**

# High school

神奈川県の高校はスポーツ、文科系ともにクラブ活動が盛んです。  
皆さんの先輩たちが活躍している三浦半島エリアの高校クラブを紹介します。





県立  
追浜高校

## 弓道部

1981年創部 / 49人(3年:12人、2年:20人・1年:17人)

### 集中力と精神力が試される



「巻わら」の稽古は体の形をつくる基本練習。新入部員は280～300本打ち込んで初めて、実際に射る「的前」稽古へと進む

### 自分自身と向き合う競技

弓道は「礼」を重んじる競技だ。県立追浜高校敷地の一角にある屋外の弓道場。射場に入る時、射位に立つ時、稽古が終わった時…いつても礼が欠かせない。試合や大会前は弓道衣を着けるが、この日はジャージ。しかも小雨交りであって、足元は床板を覆うブルーシート張りだ。そんな状況でも「入ってきて一礼

をする時、気が引き締まる」と榎雄伍さん(2年)。大楠中学(横須賀市立)時代はサッカー部だったが、チームスポーツとは別のことをやってみようと弓道部に入部。そこでより求められるのは精神力だ」と知ったという。9月の関東個人選抜に長嶋夏里さん(2年・メイン写真中央)とともに出場し、気迫を見せた。

西柴中学(横浜市立)で水泳部だった松尾大河さんは、「自分自身と闘う、その自分をもっと鍛えたい」と、やはり個人競技である弓道を選んだ。今年夏の全国高校総合体育大会(インターハイ)に出場したエースだ。

### スタートラインは一緒

直径36センチの的は28センチ先。当たると周りから「よし!」と声がかかる。射た直後も姿勢や集中力は保たれて



「中学で伸び悩むことがあっても、高校では自分自身に勝つことで達成感が持てるようになった」という松尾さん(写真左)と、「自分がやってきたことが積み重なり、だんだん結果が伴ってきた実感がある」という榎雄さん(写真右)

いる。「礼式に則った姿勢や形が自然にできるようになるまで、最初は戸惑うかもしれない」と松尾さんは話す。自宅でも何も持たずに形を確認する稽古を繰り返し体で覚えてきたという。

高校や部活動の良さとして部長である榎さんは、「自分たちで考え自分たちで動ける自主性」を挙げる。

長年コーチを務めてきたOBでもある鹿島正さんは言い添える。「高校から始める子がほとんどで、スタートラインは一緒。それぞれが目標をもって成長することで、達成感を得ることができます」